



注目ポイント

- ✓2025年、日銀は物価と賃金の持続的な上昇を確認しつつ約30年ぶりの水準へ政策金利を引き上げ、金融政策正常化への歩を一歩進めた。そんな環境下、株式相場は巳年の相場格言「辰巳天井(昇り龍のように株価が上昇するが相場が天井を打ちやすい)」が意識される中、企業収益の拡大を背景に日経平均、TOPIXなど主要な株価指数は史上最高値を更新した。
- ✓2026年、日本は利上げ継続、そして米国は利下げ基調と日米の金融スタンスの違いが市場の焦点となるなか、金利差縮小から円高圧力がかかることが予想される。また、相場格言「午尻下がり(後半に弱含みやすい)」が意識される年でもあるが、株式市場は、高市政権の高圧経済(供給力を上回る需要を意図的に創出する状態)政策による企業収益の底堅さや、投資マネーの流入期待を背景に、堅調な相場展開を期待したい。
(門倉英司)

①マーケット動向(実績データ)

2025年12月22日

~ 2026年1月2日

市場・指標			12月22日 ~ 1月2日		1月2日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
株式	日本	日経平均 (円)	50,942	49,982	50,339	+832	+1.7%	
	米国	NYダウ (ドル)	48,782	47,853	48,382	+248	+0.5%	
	ドイツ	DAX (ポイント)	24,677	24,203	24,539	+251	+1.0%	

市場・指標			12月22日 ~ 1月2日		1月2日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			最高	最低	終値	変化幅(%)	
金利 (国債)	日本	10年 (%)	2.100	2.005	2.060	+0.045	
	米国	10年 (%)	4.20	4.10	4.19	+0.04	
	ドイツ	10年 (%)	2.91	2.82	2.90	+0.00	

市場・指標			12月22日 ~ 1月2日		1月2日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	変化幅(円)	
為替	米ドル (円)		157.75	155.56	156.84	-0.91	
	ユーロ (円)		184.92	183.28	183.84	-0.90	
	豪ドル (円)		105.28	103.89	104.98	+0.69	

市場・指標			12月22日 ~ 1月2日		1月2日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
その他	日本	東証リート (ポイント)	2,035	1,999	2,014	-2	-0.1%	
	米国	NY原油 (ドル)	58.88	56.60	57.32	+0.7	+1.2%	
		NY金 (ドル)	4,584	4,284	4,330	-58	-1.3%	

(注) Bloombergのデータを使用して日銀総研作成。休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。



②マーケット動向(振り返り&予想)

2026年1月5日 ~ 2026年1月9日

株式 神経質な展開

日経平均
【予想レンジ】 50,000 円 ~ 51,500 円

- 12月下旬の日経平均は、22日に半導体株が牽引役となり、あっさりと5万円台を回復。その後は日銀による追加利上げ観測や円高進行を受けて輸出関連株が重荷となったものの、個人投資家の押し目買いや先物主導の買いが下値を支え、大納会まで大台を維持した。年末5万円台と、2025年の年間上昇幅1万円超えは、ともに初と、2025年の強さを象徴する締めくくりとなった。
- 今週の日経平均は、引き続き米ハイテク株や米金利の動向に左右されるなか、米雇用統計(9日)を控え神経質な展開が予想される。またイベントとしては、FRBの新議長人事が明らかになるかどうか注目が集まる。波乱の展開となる可能性もあるが、日本株は企業収益改善期待から、押し目は拾われやすい地合いが続くだろう。

金利(国債) 入札をこなしながら居所を探る展開

10年国債利回り
【予想レンジ】 2.020 % ~ 2.110 %

- 12月下旬の国内金利は上昇。国債増発懸念を背景に、22日には10年国債利回りは一時2.10%(1999年2月以来)まで上昇する場面も。その後、国債発行計画で超長期債が減額されたことで、債券相場は反発気味となるも、29日に金融政策決定会合(12月開催)での「主な意見」が公表されると、利上げ継続を主張する声が多かったと受け止められ、債券相場の重荷となった。
- 今週の国内金利は、居所を探る展開か。年末、日銀の利上げ継続観測を背景に、2年国債は1996年8月以来の水準に、また5年国債は2008年6月以来の水準にまで上昇。また年明け、米長期金利が上昇基調であることも国内債の重荷となろう。今週、新年初の入札(6日:10年、8日:30年)をこなしながら、長期金利は居所を探る展開になろう。

為替(米ドル) もみ合いか、米雇用関連統計で方向感を探る

米ドル/円
【予想レンジ】 155.50 円 ~ 158.30 円

- 年末年始のドル円は円高ドル安が進展。日銀による利上げ決定直後には、利上げペースが慎重との受け止めから約1か月ぶりに1ドル=157円後半まで円安が進んだドル円だったが、その後片山財務大臣の口先為替介入(投機的円安、断固として措置を取る)を受け、徐々に円買戻しが進んだ。薄商いの年末年始は方向感は乏しく、156円台を中心としたレンジ取引に終始した。
- 今週のドル円は、もみ合いか。FRBの利下げ慎重姿勢と日銀の段階的利上げ観測が交錯し、当面ドル円は大きな値幅を伴わないもみ合いが予想される。今週は相次ぐ米雇用関連統計(7日:ADP全米雇用リポート12月、9日:米雇用統計12月)の内容を確認しながら、方向感を探る展開となろう。

直近1年
円
※Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成

直近1年
%
※Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成

直近1年
1\$=円
※Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成

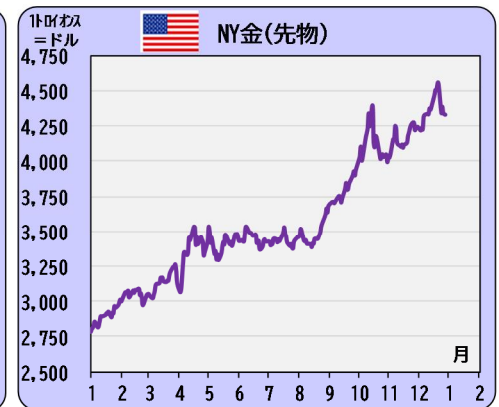
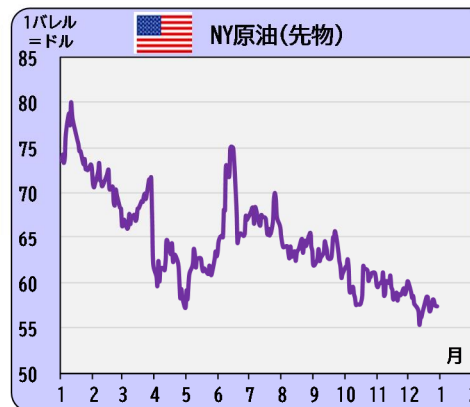
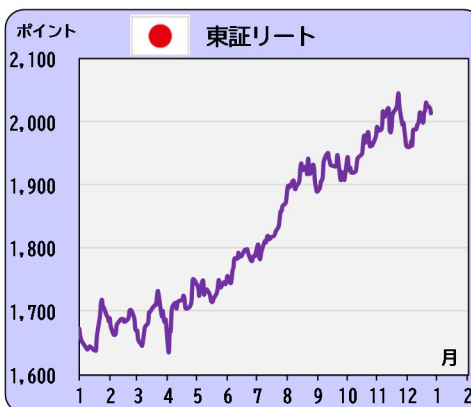
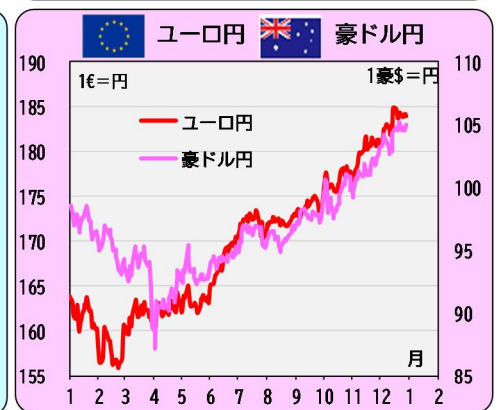
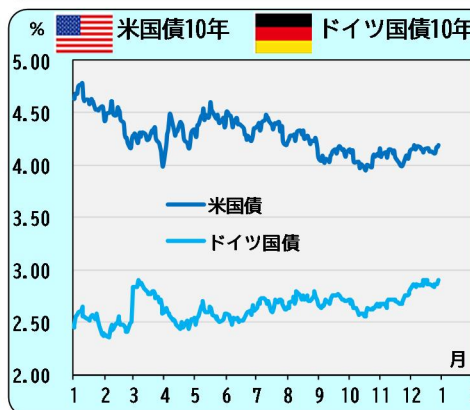
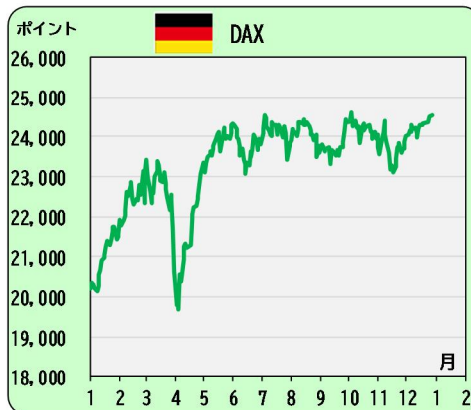
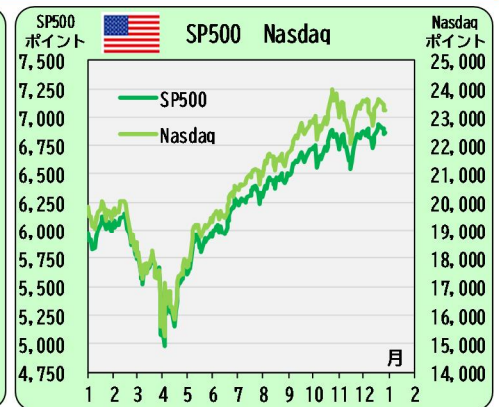
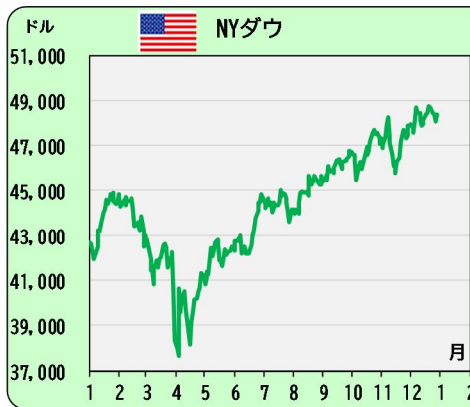
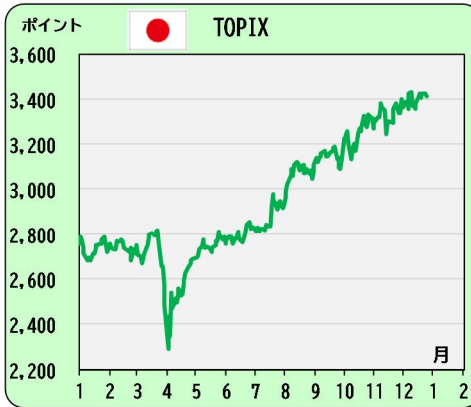
○今週の注目指標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月日	国内	海外
1/5(月)		米国: ISM製造業景況指数(12月)
1/6(火)	国債入札(10年)	
1/7(水)		米国: ISM非製造業景況指数(12月) 米国: ADP雇用報告(12月)
1/8(木)	国債入札(30年) 毎月勤労統計(11月)	米国: 貿易収支(11月) 米国: 消費者信用残高(11月)
1/9(金)	家計調査(11月) 景気動向指数(11月)	米国: 雇用統計(12月)



③その他チャート集

直近1年間



※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
ADP	米国の給与計算代行大手会社	FOMC	米公開市場委員会	PBR	株価純資産倍率
AI	人工知能	FRB	米連邦準備理事会	PCE	個人消費支出
CTA	商品投資顧問	FTA	自由貿易協定	PER	株価収益率
CTFC	米商品先物取引委員会	GDP	国内総生産	PMI	購買担当者景気指数
CPI	消費者物価指数	IMF	国際通貨基金	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
ECB	欧州中央銀行	IEA	国際エネルギー機関	SQ	特別清算指数
ETF	上場投資信託	ISM	米供給管理協会	TPP	環太平洋経済連携協定
EU	欧州連合	OECD	経済協力開発機構	WSTS	世界半導体市場統計
FDI	海外直接投資	OPEC	石油輸出国機構	WTI	ウエストテキサスインターメディアート(原油)
FF	フェデラルファンド	OPEC+	OPEC加盟国と非加盟国の枠組み		

●ご留意事項

- 本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客様ご自身でなさるようお願いいたします。
- 本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いいたします。